

8/22-23

第20回 薬害根絶デーに参加しました！

「薬害」を知っていますか？ 1980年代、血友病患者にウイルスの不活化を施していない血液製剤が使われ、多くのHIV感染者を生んだ薬害エイズ事件が起こりました。ウイルス感染の危険を知らずに販売していた製薬企業と、国の事実隠ぺいにより多くの被害者が生まれたこの事件の反省から、1999年8月24日、厚生省（現・厚生労働省）は薬害根絶のための最善の努力を重ねていくという「誓いの碑」を庁舎正面玄関前に建立しました。

その翌年から毎年8月24日（今年は23日）、全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）が厚労相に要請文を手渡す「碑の前行動」をおこない、厚労省・文科省交渉、厚労省前でのリレートークなどを実施しています。これが「薬害根絶デー」です。

愛媛民医連からも、毎年薬剤師と薬学生が参加して薬害根絶を訴えています。

今年は、2名の薬剤師と奨学生2名の計4名が参加してきました。

（引用：厚生労働省HP、全日本民医連HP）



《学生の感想（一部抜粋）》

薬害根絶デーに参加するまでは、薬害は副作用と同じ意味だと思っていました。ですが、薬害とは有害性に関する情報が軽視・無視され、使用された結果、引き起こされてしまう健康被害であることと知り、この2文字に副作用よりも深刻な意味が込められていることに衝撃を受けました。

自分よりも年下の方々が参加している活動内容や、実際に薬害被害に遭われた方々の貴重なお話を聞き、多くのことを感じ、学ぶことができました。

今の自分が健康であることや、勉強できる環境が整っている今の状況に感謝すべきであることに改めて気付けたことは今回、薬害根絶デーに参加して得られたものとして、とても大きく感じます。

薬害を防ぐためには、多くの人に薬害のことを知ってもらうこと、そのためには、薬害のことを多くの人に広めていく事が大切であると学びました。



誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する

千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省しこの碑を建立した

平成11年8月 厚生省

